

君の発明、特許取ろう

豊田のクラブ 子どもの出願、専門家支援

小中学生がモノづくりの基礎を学ぶ豊田少年少女発明クラブ（愛知県豊田市）が、今夏から「特許教育」を始め、トヨタ自動車の子会社から派遣された専門家が児童生徒のアイデア工作について助言し、特許の取得を支援する。身近なアイデアに磨きをかけ、子どもの創造性を育む。特許を取る手法を身につけてもらい、将来のモノづくりを担う人材育成につなげる。（白石昌）

「ハサミで紙を円や曲線に切るときに切り口がカタカタで丸い円を切る」セーターになるので、困り事を「フレイ・サークルカッター」を制作中だ。小学六（仮称）を制作中だ。



専門家の助言を受け、アイデア工作を作る豊田少年少女発明クラブのメンバー。愛知県豊田市の豊田少年少女発明クラブで。

創造性育み、モノづくり担い手に

従来のサークルカッターは、思い通りの大きさに円を切れず、精度に課題があった。円の半径の長さは、カッターの刃を器具に取り付ける位置で決まるが、器具に刃を固定する際に微妙なずれが生じるためだ。櫻井さんは専門家の助言を受け、カッターの刃をしっかりと固定できるように改良を重ねている。発明の観点では精度を高めるアイデアに新規性が認められるという。四十一年の歴史を持つ豊田少年少女発明クラブは約千人の小中学生が所属。クラブ員のアイデア工作が愛知県の「創意工夫展」で上位に入賞する例も多いが、大島寿治事務局長は「特許を取れるレベルの作品もあるが、特許の申請手続きが分からず、費用もかかるため、あきらめるケースがほとんどだった」と明かす。そこで昨春秋、発明をテーマにした相談会を開いたところ、特許取得に前向きなクラブ員と保護者が多く、本格的な特許教育に乗出した。トヨタ自動車は完全子会社で、特許出願などを手掛ける「トヨタテクノカルティベロップメン」が専門家を派遣するなどして協力している。まず七月に学で発明の着眼点を学んだ後、子どもたちのアイデアを形にした作品に専門家が助言。クラブが八月に開く作品展で、上位の二三作品について特許取得を助ける。アイデアに新規性があるかどうか、専門家が類似の特許を吟味した上で、特許出願に必要な資料を作成してもらうなど、特許出願にかかる十数万円の費用は保護者に負担してもらう。トヨタのエンジニア出身の大島事務局長は「小学生の時から特許を取ることができれば自信がつくし、人と違ったアイデアを生み出すための着眼点を訓練すれば、大人になっても役に立つ」と力を込める。日本の特許出願件数はかつて世界一だったが、近年は中国や米国に大きく差をつけられている危機感も背中を押したという。「十一年、二十一年に地域やモノづくりを支える子どもたちを育てたい」と意気込んでいる。

【参考】

この記事は、株式会社中日新聞社に当社ホームページ上での閲覧限定の許可を得て掲載しています。転写・複写は厳禁とします。